

DOCTOR'S
INTERVIEW

vol.33

「**目指したのは、対話のできるクリニック。先進の医療機器と患者さん主体の体制で地域の健康をサポートしたい。**」



昨年冬、名古屋市名東区に開院したけやき内科は、呼吸器疾患、アレルギー疾患をはじめ、総合的な内科診療を行うクリニック。「地域に根付く医療サービスを目指していきたい」という院長の加藤景介先生に、そのお考えについて話をうかがいました。

呼吸器診療のレベル維持が重要課題に

「より患者さんと近い立ち位置でニーズに応えていきたい」という思いから開業を決めたという加藤先生。開院にあたっては、総合的な内科診療を行ながる専門分野である呼吸器の診療レベルをどう維持していくか、ということが大きな課題だつたといいます。

「特に呼吸器診療についてはこれまで自分が勤めていた総合病院の外来診療と変わらなかつたといいます。

現在、けやき内科では検査技師や放射線技師が常勤し、採血、肺機能検査をはじめ、マルチスライスCTなどによる画

い、高いレベルの医療を提供したい」という強い思いがありましては、総合的な内科診療を行ながる専門分野である呼吸器の診療レベルをどう維持していくか、ということが大きな課題だつたといいます。

「より患者さんと近い立ち位置でニーズに応えていきたい」という思いから開業を決めたという加藤先生。開院にあたつた。そのためには、医療施設の規模にかかわらず、先進の医療機器を取りそろえることが必要だと判断しました」。

PROFILE

けやき内科 院長

加藤景介先生

かとう・けいすけ 1993年名古屋大学医学部卒業。国立療養所東名古屋病院呼吸器内科、名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科、公立陶生病院呼吸器・アレルギー内科部長などを経て、09年けやき内科開設。医学博士、日本内科学会認定総合内科専門医、日本呼吸器学会認定専門医、日本アレルギー学会認定専門医、日本感染症学会認定専門医。

患者さんとの距離を縮める担当看護師制

高水準の医療を提供すると同時に、短い診療時間の中でも患者さんの不安や悩みを解消できるクリニックでありたい、という加藤先生。こうした考え方から、けやき内科では来院から診察が終わるまで1人の看護師が患者さんに付き添う「担当看護師制」を導入しています。

「当院では、予診をとった看護師が患者さんと一緒に診察室に入り、患者さんは看護師と並んで医師の診察を受けるというスタイルをとっています。どんな患者さんにとっても、診療中は緊張するもの。そんなとき、看護師をよきサポートとして頼つていただきたいですね」。

今後は、慢性呼吸不全の患者さんへの在宅酸素療法や、ADLの低下した患者さんへの訪問診療など、在宅医療の面でも役割を担つていただきたいと、地域医療への熱意を語つてくださいました。

像検査、睡眠時無呼吸検査、気道過敏性検査などを実施。一部を除き、当日中に検査結果を出すことができるよう体制を整えています。こうした取り組みにより、市外からも呼吸器疾患の患者さんが多数訪れているといいます。

心の負担を軽減する院内環境へのこだわり

病院独特的緊張した雰囲気をできるだけ軽減したいという思いから、プライバシーに配慮しながらも、リラックスできる空間を追求して設計された待合室。「名古屋らしく喫茶店の心地よさを意識しました(笑)」と加藤先生。ナチュラルな素材を使った優しい雰囲気が、

若い女性を中心に好評を得ているそうです。また、回廊式の診察スペースには診療室や検査室のほかに、医師の診察前に看護師が現在の症状などをうかがう予診室や生活指導室などを設け、患者さんが医師や看護師と対話しやすいよう工夫がなされています。



◀優しい雰囲気の待合室 ▲先進の医療機器を取りそろえた検査室